

2023年

(令和5年)

1月1日[日]



沖縄大学

同窓会報

発行

沖縄大学同窓会広報委員会

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555

☎・FAX 098 (832) 6560

E-mail

dosokai@okinawa-u.ac.jp

第35号

新年のあいさつ



同窓生に勇気を与えるものでした。



沖縄大学同窓会
会長 棚原勝也

謹んで新春をお祝い申し上げます。同窓の皆様には良き新年をお迎えのことと存じます。

昨年はいまだ続くコロナ禍のため6月の定期総会は3度目の文書開催となり、誠に残念で悔しい思いをいたしました。

しかし、関東支部総会をはじめ久米島支部との懇親会、青年部を中心とした現役学生との親睦会、関西支部結成に向けた交流会など、同窓会の「すそ野を広げる」活動を広く展開いたしました。

また現役学生の頼もしい活躍が光った年でもありました。国家試験合格という学業面もさることながら、野球、水球、空手、陸上、そして初の県内大学からのプロ野球選手の誕生と、文武両面に輝く話題は多くの

今年は学生生活のほとんどがコロナ禍という環境だった健康栄養学部1期生が3月に卒業式を迎えます。新たな同窓の仲間の誕生でもあります。学生にとつては自身が思い描いたキャンパスライフではなかったかもしれないが、逆境や困難が成長に繋がったことを願います。

「不安や迷いこそが勇気を生み、挫折こそが人の力を育み、敗北という手痛い経験こそが英知を授け、決して曲がらぬ志こそが勝利をもたらす」

来年、新1万円札の顔となる渋沢栄一の言葉です。さて来年といえば、いよいよ同窓会創立60周年の大きな節目の年です。現在の同窓会の原点は言うまでもなく同窓会をつくり、発展させてきた先輩方の熱意です。そうした歴史を振り返りつつ、新たな未来を展望する節目にするため準備を始めました。今年も挑戦の年にしてまいります。



沖縄大学
理事長 佐喜真 實

明けましておめでとう
ございます。

沖縄大学同窓生の皆様におかれましては、新春を清々しい気持ちで迎えられたこととお慶び申し上げます。

本年はいよいよ、大学の管理栄養学科から、沖縄初の管理栄養士が巣立っていきます。卒業後は病院、学校、福祉施設、給食センターなどの場所で活動されます。同窓の皆様には引き続きのご支援、サポートをお願いできればと存じます。

昨年は本学卒業生が司法試験に合格するという快挙もありました。そしてプロ野球ドラフト一位指名を受け、プロ野球選手への道を切り開くなど、本学学生の活躍の枚挙にいとまがありません。

同窓会からは昨年も大きな支援をいただきました。同窓からの励ましほど、本

学の学生を元気づけるものはありません。学生が学業を継続し、さらに大きく成長できたのは、そのようなご支援の賜物と感謝申し上げます。

本学は本年6月で創立65周年を迎えます。沖縄県内で一番古く、沖縄県の発展に貢献できる人材輩出に尽力してきた伝統ある私立大学の自負の下、更なる発展に向けて、大学改革に邁進してまいります。

本学同窓会のご発展と、同窓生のますますのご活躍を祈念し新年の挨拶いたします。



沖縄大学
学長 山代 寛

新年、明けましておめでとうでございます。

昨年4月の学長就任以来、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図りつつ、大学としての活動を最大限遂行することに努めてまいりましたが、学生たちの課外活動には大きな制約がありました。

そのような状況下、同窓会からは水球部や陸上部、野球部、空手部など全国大会に出場する学生たちへ派遣費と激励をいただき深く感謝しております。

また今年、同窓に加わる仲地礼亜君の中日ドラゴンズドラフト一位指名によるプロ入りは、本学だけでなく沖縄県民にとっても快挙であり、活躍に期待しています。

同窓の知覚氏の那覇市長就任も大きな出来事でした。那覇市と包括連携協定を結ぶ那覇市にある大学として、今まで以上に地域貢献の機会が得られることを願っています。

本学は今年、5カ年計画である第5次中期計画の総仕上げを行い、第6次計画のスタートに繋がります。沖縄大学の歩んできた物語を踏まえつつ新たな挑戦をしていくことになりました。同窓会の皆様には引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆さまにとって良い年になることを祈念し、新年の挨拶いたします。

関東支部長 仲宗根政則

新年明けましておめでとうございませう。昨年の関東支部の支部行事開催実績は、コロナ禍ではあります。が3年ぶりに本部役員にもご参加いただき、リアルでの支部総会及び懇親会を開催したことです。久しぶりの再会に大いに盛り上がりました。

観光立地としての沖縄もコロナと共存しながら頑張っており、関東支部においても少しずつではあります。が、支部活動を再開しています。今年の支部行事は昨年以上の企画・開催をしてみたいです。一緒に明るい未来を切り開いていきましょう。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



久米島支部長 宇江城 久人

新年あけましておめでとうございませう。

昨年も新型コロナウイルス感染症の猛威が続く中、ウィズコロナで新たな生活様式の下、個人個人が対策する事によりイベント開催が増えて来しました。

久米島でも同窓会会長を迎え久々に交流会も開催することが出来ました。

2023年も依然として厳しい状況が続くと思われませんが、このような時代だからこそ人と人との繋がりを大切に、更に強化し、今年はこれまで実施できなかった総会やパークゴルフ大会の開催。また他支部との交流も積極的におこないます。本年も久米島支部をよろしく願いいたします。



宮古支部長 下地一美

新年あけましておめでとうございませう。昨年度の春先から暮れまで、年間を通してコロナ禍の騒動に振り回され、当初予定していた支部会合・行事もやむなく中止となりました。

今年は、4月の総会で新支部役員改選を皮切りに支部行事・活動の再開を計って参ります。実り多き1年間にしたく、支部会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

これまで1年間蓄財した支部経費と温存した体力を有効活用し、輝かしい支部活動の年となりますように、後々語り草となる良き年になるよう杯を高く掲げましょう！ 乾杯！



八重山支部長 鳩間真英

初春のお慶びを申し上げます。新年を迎え、新たな気持ちで出発を期したいと思ひます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大で大変な支部活動でした。それでも計画どおり、定期総会と年4回のグラウンドゴルフ大会が実施できました。

今年も感染防止を徹底し例年どおり総会を開催。親睦を深めるため、グラウンドゴルフ大会を緑あふれる広場で催していきたいと思ひます。

皆様の提言とご協力をお願い申し上げます。新年の挨拶といたします。



女性部会長 熊谷フサ子

「あけましておめでとうございませう」。私事ですが、一年の主な行事を黒板に掲げ、一つ一つをクリアして新しい年を迎えます。暮れの「着納め会」は、着物に触れ、着衣を楽しみ、国際通りを散策、那覇市歴史資料館が終着です。

同窓会女性部会の新たな活動にコーラスを取り入れました。同窓会事務局と大学施設課のご協力を賜り、立派なピアノを活用し、素晴らしい講師の下、全5回のレッスンを実施。うれしい時、寂しい時に口ずさむ歌があればと思ひます。今年もどうぞ宜しくお願いします。



青年部会長 島袋 格

あけましておめでとうございませう。改まった年に、同窓会員の皆様のご多幸を、青年部会一同、心よりお祈り申し上げます。

青年部会は若い世代の同窓生の交流を旨として活動してきました。最近では同窓会活動を周知する目的で、現役学生との交流会を開催しています。2022年は感染対策上、規模は縮小したとはいえ大学祭を対面で開催しています。企画・準備には大変なご苦労があったことと思ひ、大学祭実行委員の学生たちを招いて恒例の観月会を開催しました。今年も感染対策には十分に留意し、可能な方法での交流を継続してまいります。



新年のあいさつ



沖縄大学後援会・沖縄大学支援同志会
会長 新垣 淑典

新年明けましておめでとうございます。

2023年、今年こそは以前の生活が戻ってくると思ってお正月を迎えた学生さんも多くいると思います。

ただ以前の生活、といっても以前の生活がどうだったのか？ 中にはそれさえも思い出せない方もいらっしゃるかもしれません。あまりにもこのコロナ禍は長過ぎました。

しかし徐々にマスクを外せる場所、時間が増え、息苦しさも減りつつあると思います。もちろん自分の健康は自分で管理しながら新しい年を有意義な一年にして下さい。

支援同志会も微力ながら学生の皆さんの大学生活に寄与できるよう、支援を続けていきます。この一年が沖縄大学に学ぶ学生さんにとって、素晴らしい一年になることを祈念し、年頭の挨拶といたします。

社会的ニーズに対応できる
管理栄養士の養成の意義

沖縄大学健康栄養学部
管理栄養学科
学部長 新城 正紀

2019年4月に管理栄養士養成施設として「健康栄養学部管理栄養学科」（以下、本学管理栄養学科とする）を新設し、2023年3月に第1期生が卒業する。現在、国家試験全員合格をめざして取り組んでいます。

沖縄県民の健康関連指標（平均寿命など）は、全国平均より下回っており生活習慣病の予防および対策



実習中の学生たち

は喫緊の課題となつています。生活習慣病の原因の一つは、食生活の乱れであり、すべての人々のライフステージにおける食生活の改善が求められており、栄養の専門的知識を有し、栄養指導を実践できる能力を備えた管理栄養士が地域、学校および職場で活動することが重要です。

管理栄養士は、疾病者への対応としての医療学の分野、一般人のQOL向上を目的とした疾病予防のための生活の理解、すなわち家族構成、生活スタイル、運動、休養（睡眠を含む）、年齢、性別などの要因が絡む多様な個人の理解のうえで、食事内容（料理）や食べ方（食事時間等）まで栄養指導できる管理栄養士の資質が必要である（日本学術会議、2020）との提言があります。

本学管理栄養学科のカリキュラムはこの新たな提言に適合しており、卒業生は社会的ニーズに対応できる管理栄養士として活躍すると期待しています。

嘱望されていた
仲地投手

監督 大城 貴之

仲地礼亜は嘉手納高校の時から有望選手として将来を嘱望されていました。「沖縄大学に進学したから伸びなかった」とは絶対に言われたくありませんでした。仲地本人も同じ気持ちだったと思います。

大学2年生の秋頃から頭角を現し、目標を持って階段を一段ずつ登るように成長していききました。その成果をドラフト1位という形で最高の評価を得たことはこの上ない喜びでした。

仲地が高校時代に監督だった大蔵宗元先生は私と同じ大学の卒業生です。その意味では仲地投手は、高



仲地投手（右）を紹介する大城監督

夢を与えられる
選手に

仲地 礼亜

昨年は卒業後の進路を



左から、棚原会長、仲地投手、大城監督

校と大学の7年間で沖大出身の監督のもとに鍛えられた選手といえます。本学同窓会にとっては、よりうれしいニュースではないでしょうか。

プロ野球選手という職業は華やかな反面、大変厳しい競争下にあります。最初は環境の変化に戸惑うかもしれませんが、何とか2月の春季キャンプを乗り切って開幕を迎えてほしいものです。

そこをクリアできれば次の目標も見えてくると思います。今後も仲地を支えていきましょう。

プロ一本に掲げて練習に取り組んできました。指名された時は信じられない気持ちで強く実感がわきませんでした。

最高の評価をして頂いたことを大変光栄に思っています。私の強みは直球と変化球の組み合わせで打者を攻めることです。まずは体力をつけ、その特長をより伸ばしていきたいと思っています。

中日ドラゴンズの一員としてチームの勝利に貢献し、沖縄のみなさんに夢を与えられる選手になりたいと思います。これからも応援よろしくお願いたします。



中日ドラゴンズの立浪和義監督（右）と握手をする仲地投手

近状報告

中国 吉林大学 社会科学学部
北東アジア学院国際政治専攻
2021年3月 沖縄大学卒業
2021年9月 吉林大学入学

吉田 光



研究テーマは「日中平和的関係維持における東アジア共同体の重要性」です。大学在籍時に中国の西安に留学したことで、東アジア地域に目を向けるようになりました。

現地で中国の現状を目の当たりにし、日中の対立の構図を加速させるメディアの報道に疑問を抱くようになりました。現在で似通った文化背景を持つ国同士、協調を通じて関係改善ができるのではないかと模索しています。

専攻は三年制で、最初の一年半は科目履修、後半は研究・修論執筆がメインで日本の大学院とは少し違った部分もあります。

授業では主に北東アジア地域の情勢。また日本・

中国・韓国・ロシア・北朝鮮・アメリカの外交政策や政治を学んでいます。

現在はまだオンライン

授業ですが、学科では唯一の留学生として中国人学生との交流を通じ、日本の学校では触れることができない意見や考えの違いに刺激されている日々です。

前：沖繩大学 人文学部 福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻 2022年3月卒業
現：立教大学 博士前期課程1年

福里星歌



私が現在行っている研究のテーマは、「健康不安と望ましい身体の獲得の連動性」です。具体的には、人はなぜ健康な状態である

ことを望むのか、また、その中で形成される、理想とする身体とはどのような関係性があるのかについて、社会学的な視点から明らかにしたいと思い、研究しています。

大学卒業時までにはパラ
スポーツ関連の研究をして
おりましたが、テーマを見
つめ直し、根本的に氣に

なっている事象は何かを考
えていくと、沖縄大学入学

た一人が無意識的に健康的に生きたいと考えてしまうのはなぜだろう」といった疑問でした。これまでの人生の中で、ずっと考えてきたことについて研究ができた

恵まれた環境に身を置ける喜びを感じている毎日です

大学院の授業では学部とは違いより専門的な講義であり、討論が主体となっています。我々の研究科では福祉系や政策系、またスポーツ系の仲間たちが共に受講しており、多角的な視点から討論が行えます。

沖縄大学同窓会奨学金

を頂いたことにより、円滑に研究を進めることができています。奨学生に選定していただき感謝申し上げます。

**沖縄大学大学院現代沖縄研究科
沖縄・東アジア地域研究専攻1年次**

新田 和馬

私の研究テーマは「琉球王国における泊村の歴史的役割について」です。この研究では、約450年間

存在した琉球王国で、泊村という地域がどのような役割を果たしていたのかを調査しています。

泊村は現在の那覇市泊及び前島を合わせた地域とされており、付近の天久や上之屋、安里とも深い結びつきのある地域でした。また近世琉球（1609～1879）では町方（都市部）の一部であり、行政区画的には首里や那覇、久米と同等の地域でもありました。

このように泊村は王府

にとつて重要な地域とされ、周辺地域にまで影響を与えていたが、先行研究の蓄積は乏しい状態です。これまで泊村が王国内の離島を結びつけていたことは知られていますが、具体的にどのような施設や役職、役人が存在し、それらが外的・内的な影響を受けてどのような変遷を辿ったのか、はあまり解明されていません。現在はそれらを解き明

現在ではそれらを解き明

かすため、先行研究の収集や文献史料の解説をしています。歴史学という分野の特性上、史料収集や書籍の購入に多額の費用がかかるため、同窓会から頂いた奨学金が役立っています。本

当に感謝申し上げます。これからも沖縄大学大学院生として、その成果を本学及び地域社会へ還元できるよう研究に励んでいく所存です。



古文書読解のようす。泊村の住人である時有力な役人であったとされる毛氏安里大親清信の由来書を読んでいます。古文書はくずし字で書かれていますので、読みこなせるよう、日々練習しています。

東京学芸大学大学院 教育学研究科
(教職大学院) 教育実践専門職高度
化専攻 特別支援教育高度化プログラム
久高 優菜

久高優菜

私は現在、自閉症スペクトラム症児のコミュニケーション特徴と教育現場における支援・指導について研究しています。1年次では主に先輩方や研究員の手伝いをしつつ、研究テーマを固め、2年次で夏の実験を通してまとめていきます。

す。

また教職大学院では、小学校の特別支援学級で2年間を通した実習をしているいます。10日間の連日実習に加え、10月から週1日通いながら教員として授業、つくりや校務分掌等を行っていい

ます。学部時代とは異なり
長期間学校に通え、児童の
成長や先生方の様子を学べ
ています。

実習の中ではさまざまな児童の実態に応じた授業の展開・教材づくりを通して児童にとって楽しみながら学べる授業づくりを意識しています。授業実践についてゼミの中で共有し、先生やゼミ生からアドバイスをいただき次の実践へと生かしています。

今回、沖縄大学同窓会の奨学生に選んでいただき大学院での授業や研究に専念できることを心より感謝しています。残りの大学院生活を通し、より専門性と実践力を高め、教員として地域に貢献できるよう精進してまいります。



ゼミの時間に実習の授業実践について報告し、先生、ゼミ生と共に検討をしている様子です。ゼミ活動は3、4年生、院生、研究員の方と合同で行われ、多角的な視点から助言をいただける充実した時間です。

顧問との懇談会

顧問と同窓会執行部との3年ぶりの「懇談会」を昨年6月30日、沖縄大学で開催しました。

出席者は松堂厚雄さん、金城正弘さん、大城定理さん、玉城舞瑳子さん、2021年「秋の叙勲」で瑞宝双光章を受章の許田英子さんの5人の顧問が出席しました。

顧問からは同窓会の礎を築いた頃のエピソードなどを語っていただきながら、同窓会60周年に向けた激励を頂戴しました。また許田



顧問からは受章記念として同窓会へ寄付金が贈呈されました。



久米島支部との交流会、久米島高校朗読会

久米島支部との交流会

写真Ⅱを昨年7月8日に開催しました。参加者は宇江城久人支部長、吉永博之副支部長、大城学事務局長、そして2020年に沖縄大学を卒業した久米島町役場勤務の安里翔太、本永滉太、金元圭太の25歳トリオが参加。支部の先輩後輩の良い絆を実感し、「同窓会の交流の輪を広げることで、幅広い横の絆を深めていきたい」という思いも共有でき、有意義な語らいでした。

棚原勝也会長は同窓会のPRも兼ね、久米島高校の1・2年生を対象に朗読会を開催。沖縄大学への勧誘やマスコミの仕事の紹介を行い、高校2年で学ぶ、中島敦の『山月記』を朗読



写真Ⅲ。高校生たちに「自らの性格が環境をも変えていけることを知ってほしい」などと話しました。



関西地区同窓生の集い

関西支部設立に向け機運を醸成しようと沖大OBゆんたく会が昨年12月2日、大阪市内の沖縄料理店で開かれました。

10月に続いて2回目。関西在住の23歳から72歳までの同窓生11人が参加。沖縄から駆け付けた同窓会の棚原勝也会長、奥間昌明事務局長を囲み和やかに旧交を温めました。

棚原会長が同窓会の近



奥間事務局長が現役時代のエピソードを交え乾杯の音頭。参加者は入学時に学生課の職員として県外学生部の部屋探しに奔走した奥間事務局長の人柄に触れながら、サークル活動や学生時代の思い出話に花を咲かせました。

三線工房を営む清村斉さんが歌三線を披露。参加

者は指笛とカチャーシーで盛り上がりました。3月の支部設立に向けて再会を誓い、約4時間半の宴を締めくくりました。

3月に同窓会関西支部

「人の倍努力すること」——司法試験に合格して——
2018年度同窓会奨学生
(創価大学法科大学院卒) 根間玄実

を立ち上げるべく準備を進めています。関西在住の同窓の皆さんの連絡をお待ちしております。連絡先は具志堅毅(沖大同窓会評議員)、090・1519・0259。

法曹を志したきつかけは、沖縄大学に通っていた頃、大学生をターゲットにした大規模な詐欺事件が発生したことにあります。この事件で多数の友人が被害に遭ってしまい、100万円以上の借金を抱えて大学を中途退学せざるを得なくなる者も出るなど深刻な被害が生じました。

この時に何もできなかった自分の無力さを痛感し、このような被害で困っている人を助けられるようになりたいと考えたからです。法曹になるためには、司法試験に合格しなければなりません。司法試験は難関であるため、並大抵な努力では合格できません。そこで私は「人の倍努力すること」をモットーに合格に向け日々勉強に励みました。



根間さん(左)と、奨学生推薦教諭の岩崎准教授

水球部

沖縄県初のインカレ出場

監督 宮本晋一



水球部に寄付金を送る棚原会長（左）

第98回日本学生選手権水泳競技大会が昨年8月30日から3日間、神奈川県・横浜国際プールで開かれ、沖縄大学は大会初日に関西1位の龍谷大学との一回戦に臨んだものの、奮闘むなしく敗退しました。

大会には全国各地区（関東、関西、中部、中国、四国、九州）の予選を勝ち抜いた強豪16大学が参加。沖大と龍谷大学の対戦は、沖大の4年生でポイントゲッターの與那城武来の活躍も及ばず9-20で龍谷大学に敗れました。

立ち上がりの第1ク
奥、関西、中部、中国、四国、九州）の予選を勝ち抜いた強豪16大学が参加。沖大と龍谷大学の対戦は、沖大の4年生でポイントゲッターの與那城武来の活躍も及ばず9-20で龍谷大学に敗れました。

オーターに相手チームによる連続得点からはじまり、波に乗られてしまい失点を重ねることになりました。

その後は沖大の特徴であるディフェンスシステムを大幅に切り替えて失点を抑えられたが、沖大の得点が伸びませんでした。沖縄県初の代表戦は一回戦敗退で幕を閉じました。

與那城武来主将談 初出場というプレッシャーがありました。同窓会のみなさんからのご支援もあり頑張れたことに今はほっとしています。ご声援ありがとうございました。

軟式野球部

全国大会に初出場

監督 玉城祥梧

昨年10月に開催された沖縄県大学軟式野球秋季リーグ戦で、沖縄大学軟式野球部が初優勝。沖縄県連盟代表として第45回全日本大学軟式野球選手権大会に初出場しました。

軟式野球部は1、2年生が主力と若いチームではありますが、全日本選手権大会に向けて日々練習を取り組んできました。結果は、初戦で前回大会優勝校の法政大学に0対1で敗退しましたが、我が軟式野球部にとって多くのことを学ぶ機会になりました。

大学関係者の皆様には県大会では、球場での応援、全日本選手権大会出場に際しては沖縄から多くの声援と経済的なご支援をいただきチームを代表して厚く御礼申し上げます。



来年度に向けては「Thinking Baseball」をスローガンに一人ひとりが考えて行動し、全国制覇を目標に取り組んでいきたいと思っています。今後とも学生ともども精進して参りますので、大学および同窓会の皆様のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

陸上競技部

安里、阿波根が活躍

監督 山内昌也

第8回 w t t k・田園クラブ中距離記録挑戦大会が昨年8月6日、江戸川区陸上競技場で行われ、本学陸上競技部の安里良也（福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻4年次）が天皇賜盃第91回全日本学生陸上競技対校選手権大会（日本インカレ）1500mの標準記録3分51秒00を突破する3分50秒75を記録。9月9日、たけびスタジアム京都で開催された日本インカレに出場し、予選3組、4分00秒で13位となりました。

また9月25日、福岡県で開催された第50回九州学生陸上競技選手権大会（九州インカレ）では、女子1000mハードルで阿波根朱里（管理栄養学科4年次）が14秒75で優勝に輝きました。阿波根は2022年の栃木国体で、女子4×100mリレーの沖縄県代表選手としても出場しています。



本学の陸上競技部は短距離、跳躍、投擲、長距離選手が在籍し、お互いにモチベーションを高め合える環境にあります。これからも九州地区で常に上位をめざし、目標となる日本インカレへ常に出場するのみではなく、そこで戦えるようなチームになること、さらなる上のレベルへの夢を持ち、前へ進んでいきたいと思っておりますので応援をお願いします。

空手道部男女全国大会出場

空手道部総監督 賀数淳

第66回全日本大学空手道選手権大会が昨年11月20日、日本武道館で開催され、九州地区代表として本学空手道部から11人の選手が3種目に出場しました。

本学空手道部は過去、全日本大会で男子個人形6年連続優勝、男子団体形3位など数々の実績を誇り、全国でも屈指の強豪校として輝いた時代がありました。しかし近年は低迷し、ここ数年、空手道部OB会から「もう一度強い空手道部を」と、古豪復活を望む声が多く上がっていました。

そこで2020年度から指導体制を強化し、「3年



で全日本3位入賞」という目標の下、練習に励んできました。結果は男子団体組手2回戦で北海道大学に5対0で圧勝し、3回戦は日体大に1対3で敗れました。女子団体形は第1ラウンドで敗退。男子団体形は第1ラウンドを突破しベスト8入り。第2ラウンドで敗退したが、5位入賞となりました。

今大会は3人の4年生が出場しました。新型コロナウイルスによる練習会場の使用禁止、大会中止と最も影響を受けた学年です。困難な状況でも最後まであきらめず

に継続し、武道の聖地である日本武道館で戦えたことが良き思い出となれば幸いです。

同窓会が
国家試験合格者へ
祝金贈呈

福祉文化学科主催の「社会福祉士」「精神保健福祉士」合格者及び受験生（現4年次）への激励会が昨年8月6日、対面及びZOOM参加で開催され、同窓会から「国家試験合格者への祝金贈呈」が行われました。2021年度の合格者は18名。うち6人は「社会福祉士」「精神保健福祉士」に合格しています。

合格者からは、後輩へ「受験に対する心構えや勉強方法」などが丁寧にアドバイスされるなど、先輩後輩が繋がる心温まる集まりになりました。

柵原会長は毎年優秀な逸材を社会に送り出されている福祉文化学科の教授・



講師陣にお礼の言葉を述べた。合格者は社会福祉の現場で地域・機関・暁星等でソーシャルワーカーとして地域に貢献しています。

現代音楽クラブ
OB懇親会

昨年12月15日、那覇市内で現音OBと沖縄女子短期大学のOGの懇親会が開催されました。

会は、大阪在住の赤松雅幸さん（当時の副部長）帰沖に合わせて行われたものです。

上原一仁さんの乾杯の挨拶から始まり、学生時代の思い出を語り合いながら、旧交を温めました。

なお同クラブから同窓会事務局の奥間昌明事務局長に感謝の意味を込めて名前入りボールペンが寄贈されました。



沖大祭

ハイブリッドでやるのが沖大祭!
― 選択肢は二つより二つ ―実行委員長
石川 晴日

第63回沖大祭は10月30日、小規模ながら対面で開催できました。これが新型コロナウイルスの影響でオンライン開催を余儀なくされた去年とは変わった点です。

3年生の私を含め、対面での沖大祭を経験したことのない世代なため手探りの開催となりました。沖大オリジナルブリックやクイズラリー、クッキング

サークルやアート部による出店、作品の展示会、現代音楽クラブのライブ、ストリートダンスサークル

BASHのダンスパフォーマンス、ラジオ配信を行いました。

ラジオ配信では、人文学科社会福祉専攻の先生である西章先生をゲストに学生対教授の対談や質問コーナー、クイズなどを行いました。面白かったという総評を受けることができ、次年度にもラジオ配信を活用したいと思っています。

今年度の経験を踏まえ、次年度にはよりレベルアップした沖大祭を開催できるかと思っています。今回よりも多くの方が沖縄大学に遊びに来てくれることを願っています。



人物シリーズ 活躍する 同窓生 ②③

株式会社RIE L I F E
代表取締役
体験型放課後等デイサービス
Laugh Base

喜納 愛利さん

2010年3月
福祉文化学科卒



お仕事は？

放課後等デイサービス（以下、「放デイ」）を運営しています。障害がある子どもたちの支援です。人生にとって必要なスキルなどを個々の発達過程において支援しています。心の成長を基本において支援している。**この仕事を志したきっかけは？**

シンプルに障害がある子どもたちが好き。自分が元氣をもらえる。子どもたちと一緒にずっと笑っていられる。あとは、おねえちゃん

ん。おねえちゃんが重度障害。おねえちゃんに対して直接できることは少ないけど、自分ができる障害分野に対して自分の使命みたいな。高校の福祉教員や特別支援学校の寄宿舎指導員もあつて、全部がマツチした。

会社経営で大事にしていることは？

社員をハッピーにすること。愛と笑いから人生をハッピーにしてほしい。これは社員も子供たちもすべて。療育という視点で高校卒業までの期間ではなく、子供たちの人生を見守った支援を心掛けています。

ラフベースの特徴は？

ラフベースは、中高生をメインとしている。

小学1年から高校3年まで混在していて、活動内容や話の内容、デイの雰囲気、今やつといたほうがいいことを合わせるのが難しい。小学低学年は遊びの中で発達支援をする。中高生は、次の人生を見据えた支援をしないといけない。だからこそ、中高生に絞ることです。サービス内容を充実させたかった。子供たちや保護者、学校の先生方から「こういう事業所がほしかった」という声が届いている。

具体的な支援として、どういうのが形になった？

職業体験として、焼き芋専門店Omoimomoさんの協力をいただいて、イオン具志川で中1・3の生徒3名が一日店長をさせていただいた。こどもたちは「楽しかった！」「俺、こんなことしていたら成長できる！」「またやりたい！」

他には？

毎日夕食を子どもたちと一緒に作って食べて、19時に放デイが終わる。**これを導入した理由は？**



中高生が対象なので、ここに着くのが16時半。通常だと17時半ころに送迎の時間になる。だったら、「身辺自立」という自分の生活ができるようになってほしいから、炊飯器でお米を炊く、一品作る。食器を洗う。それで自立に向けた練習をしている。保護者からは「ありがたい！」「家に帰ってきて皿を洗うようになった」「ゴミを捨てるようになった」「包丁が使えるようになった」などの嬉しい声が届いている。

下に停めてある車が気になる！。それは？

あれは送迎車（笑）。シンプルに自分が乗りたくない車には乗りたくない。学校に来る車がださかったら（中高生の）自分だったらいや（笑）。それがランクルやバネットで来たら、（テンションが）あがるし、こどもたちも「やったー、大きい車だー」って（笑）。女の子たちも。

今後チャレンジしたいことは？

放デイにとどまらず、障害がある方々の雇用創出を手がけ、この子たちの18歳以降の人生も関わりたい。住まい支援も、必要になってくると考えている。そこには、もちろん愛と笑いが大前提。

在学中の思い出は？ どんな学生だった？

人間が好きだったので福祉を学びたかった。ただ、



がけている。**今の仕事のやりがい**は？

事業所がオープンして、まだ5か月だけど、子どもたちの心の成長がすごい。今までやりたいこともない、行ってみたいと思う場所もない、何を聞いても「なんでもいい」「どうでもいい」「面倒くさい」と言っていた子どもたちが、「BBQやってみよう！」「あっち行ってみよう！」「出てきてほしい！」が出てきている。心が成長している証拠。それがやりがい。だから、この子たち、帰りたいって言うんです。帰る時間になったら逃げるんです（笑）。

読者へのメッセージを

大先輩もいると想像したらおこがましいところもありますが、それでも伝えられるとしたら、「チャレンジしましょう！」「です。できない、と決めつけるのではなく、どうしたらできるのか？」を考えて日々一緒にチャレンジしていきましょう！ 応援しています！

（インタビュー…下地将生